合格者の軌跡

Story of their Success
Academy Campus

桐蔭バスケ部対談

進学先

京都工芸繊維大学
工芸科学部
三好菜春さん
桐蔭高校
バスケットボール部
キャプテン

進学先

和歌山県立医科大学
薬学部
渡邉陽菜乃さん
桐蔭高校
バスケットボール部
マネージャー

インタビュアー
岡 哲司
（ACターミナル校カウンセリングスタッフ）

二人とも高1の最初から志望学科が決まっていましたね。

三 好： 高1でアカデミーに入会するときに建築系と決めていたのは、インスタでリフォームとかの投稿を見て、いいなって思ったので。なんか楽しそうやなみたいな。高校の入学説明会のときに将来の夢とか方向性を一旦決めるように言われるので。

渡 邉： そうそう。けっこう早いよね。一応決めるように言われる。

三 好： そう。で、考えないと、と思って調べて一旦決めました。中学のときから周りの子たちは「教師になりたい」とか夢がある子が多かったんですけど、自分には何も無くて。だから中学のときからどうしようっていう焦りはありました。

渡 邉： みんな決めているから焦るよね。

三 好： 途中で化学系も考えたんですけど。やっぱり建築系かなって。京都工芸繊維大学は、高1の末くらいには候補に入っていて、高2の夏にオープンキャンパスに行って決めました。Design Labっていう研究所？制作所？があって。外観はカフェみたいなんですけど、中には機械もたくさんあって。3Dプリンターとか VRとか。そこがおしゃれすぎて、いいなって(笑)

渡 邉： 私もけっこう最初から薬学部で考えていました。同じように高校入学して考えるように言われてから。将来やりたいことが何にも無かったので、お母さんとかにも相談して。安定しているし、自分が好きなことができる収入もあるし。他の医療系は性格的に無理かなと。成績的に応用化学とかも考えましたけど、最終薬学部で。

高1・高2時、普段の勉強はどう進めていましたか。

渡 邉： 定期テスト以外、勉強してなかったです。

三 好： 陽菜乃ちゃん(渡邉さん)は本当にそれだったよね。不思議だった。本当にやってないのにめっちゃ点数高い。

渡 邉： 本当に(笑)普段は部活から帰ったら家でゆっくり休んで、そのあと寝ていました。テスト前はワークを1周か2周。高1の最初は範囲も少ないので3周くらいやってましたけど、高2、高3は間に合わないので、1周は絶対して、そこからは間違った問題を。

三 好： けっこう似たような問題がでるし、意外といけたよね(笑)私は高1の間はまだ勉強をやっていた方かな。周りの友だちが真面目で成績の良い子だったので。でも高2からは部活が盛り上がったこともあって、高1の時より勉強時間が減ってしまいました。もっと授業をちゃんと聞いておけば良かったと思います。

渡 邉： 学校や塾で先生に質問にはけっこう行ってました。高2のハイレベル数学（青石芳樹先生）でも、他の子たちが全然質問しないようなこともひとりで質問に行っていました(笑)

三 好： 私も高3のときはけっこう質問してた。高1、高2でちゃんと勉強をやっていない分、基礎が分かっていないことが多くて。だから基礎から教えてもらいに。

高3になってからの受験勉強はどうでしたか。

三 好： 本格的に始めたのは夏からです。高3の部活はしんどくて。高3のメンバーがみんな受験勉強を意識し始めて、どうしても後輩との部活に対する温度差が出てくるのでバランスが難しくて、ちょっと悩んだりしていました。同級生たちは部活より勉強っていう人が多かったんですけど、自分は最後まで部活を頑張りたかったので、一人でもやるって思って。逆に引退後は全力で勉強をして追い越すぞって思ってました。そう決めていたら楽でした。私は負けず嫌いなので。だから引退後の夏は勉強をけっこうやったかな。1日10時間は絶対やろうと決めてやってました。

渡 邉： 私は夏も受験勉強をやったといえばやったけど、周りと比べたら全然やってないと思う。でも共テ前とか、みんながものすごく勉強しているのが分かると、なんかそこで自分に劣等感というか。しんどかったです。全然やってなかったから。終わっていないワークとかが多すぎでどんどん焦ってきて。

三 好： 同じ。そのぐらいの時期はしんどかった。でも直前、本当に二日前とかは逆に前向きになりました。どうにかなるって思えて。今年は良い年かも、みたいな(笑)。

高3時、AcademyCampusで受けていた授業はどうでしたか。

渡 邉： ACクラスライブは、夏から難関大二次対策講座英語（吉田先生）、共テ攻略講座英語（吉田先生）を受けていました。難関大英語は、英作をすぐに添削してくれて、この部分がこうって教えてもらえるのがよかったです。答えも無くて自分では分からない部分なので。

三 好： 私も難関大二次対策英語がすごく良かったと思います。長文読解の文脈判断が特に。"これとこれが同じことを言っている"みたいなのがすごく納得できる説明でした。その読み方いいなって。習得できてよかったと思います。あと、長沼先生の共テ国語は、楽しくできたなって思います。授業の単語テストはちゃんとやろうって決めてやっていたので、漢文とか古文は分かるようになりました。読み方·解き方みたいなのも長沼先生がずっと言っていることに則ってやっていたら、急にできるようになった感じで。

渡 邉： サテラインの先生はみんな面白かったです。受けていたのは荻野先生の数学、漆原先生の物理、亀田先生の化学。荻野先生は絶対優しい人だなって思った(笑)予習は難しい内容ばっかりで全然分からないんですけど、授業では図やグラフで分かりやすく教えてくれるのですごい良かった。

三 好： 亀田先生の共テ化学は、受講し始めてから化学が楽しくなって成績も上がった。化学が必要な人は絶対とるべきだと思う。授業でできるノートがすごく良かったよね。

渡 邉： うんうん。

三 好： 清書もちゃんとやってたら「なんかできた！」ってなる。

渡 邉： 清書のあとのノートを見るのが楽しみだったよね(笑)

三 好： そうそう。二人でテストの時に見せあったりして(笑)。模試の直前の最終チェックのときとかもノート使ってたよな。

AcademyCampusに通って良かったことはありますか。

三 好： 私は、勉強をやってなかった時期も、「塾は行かないと」というのはあって。だから勉強が途切れることがなかったのが良かったなと思います。苦手だった数学も、塾の授業がなかったら取り返しがつかないことになっていたと思う。質問対応もしてもらったおかげで定期テストの点も悪くならなかったし。
英語はハイレベルクラスだったけど、勉強方法もよく分かったし、高2で短文精読とか文脈の基礎を勉強したから高3で英語の負担もかなり減ったし。
塾だとみんなが勉強をしているから、そこでやる気になれた。家だったら絶対できなかったので。あと、いろいろな相談とかものってもらえたのが良かった。他の場所だと相談しても"あとは自分で"みたいなのがわりと多い中、ちゃんと結論が出るまで相談にのって教えてくれる。

渡 邉： 英語のヨッシーからの圧(笑)も、良かったのかも。定期テストとかで「絶対良い点をとろう」ってなってた。

三 好： そうそう、高1から適度なプレッシャーがあって、逆に良い時は褒めてもらえたりして、勉強のモチベになったよね。

渡 邉： 高2は部活中心で遅刻とかとして、ヤバいヤバいって言いながら来たよね。二人とも単語テストがダメで注意されたことがあって。それから改めて頑張ろうってなってたよね。

三 好： うん。頑張ろうってなったから、あれはあれで良かった(笑)

これから受験に向かっていく後輩にメッセージをお願いします。

渡 邉： 勉強も大事だけど、部活とか学校の行事も最後まで楽しんだほうが、その分勉強のやる気もでると思います。

三 好： 自分に足りていないことを分析して、克服する方法を考えて実行すること。先のことをいろいろ考えて悩みすぎずに、目の前の一問に集中することの方が大事です。
あとは、メンタルケアも大事。モチベーション維持やリラックスの方法とか、自分に合うものを見つけて欲しいと思います。私は周りと比べてしまってしんどかった時に、スタプラ（スマホアプリ Studyplus）をやめて、友達の情報を断ちました。自分の機嫌の取り方を知っていると楽になります。

編集後記 ～インタビューを終えて～

高校1年生の時に将来の進路（学部）を定め、部活が忙しくても最後まで諦めることなく貫いた二人の意志の強さと継続力は、本当に素晴らしいと思います。
渡邉さんはインタビュー中に「勉強をしていなかった」と盛んに言っており、高1.高2生の時も「今回の定期テストは本当にヤバイ」という風な話もよく聞きましたが、毎回結果は英語数学国語8割以上でした。勉強していなければ取れるはずがない点数をいつも取っていたので、彼女の「勉強ヤバイ」を最後は信用しなくなりました（笑）。恐らく、勉強していないというレベルが他の人達とは違ったのだと思います。
三好さんは桐蔭女子バスケ部のキャプテンとして活躍しました。キャプテンとしての責務と重圧もあり、部活に全力でも勉強からは逃げなかったことが、志望校合格に繋がりました。目の前のことに集中してコツコツ努力を積み重ねること、わからないことを放置しないこと、彼女の勉強への向き合い方から後輩が学ぶべきことがたくさんあるように思います。
3年間本当によく頑張った二人です。そんな姿を見ていたからこそ、大学合格は本当に嬉しかったです。大学でも持ち前の明るさと元気良さで、頑張ってください。本当におめでとう！